

# 福岡県高次脳機能障害支援 モデル事業報告

産業医科大学リハビリテーション医学講座  
蜂須賀 研二

2005.2.4

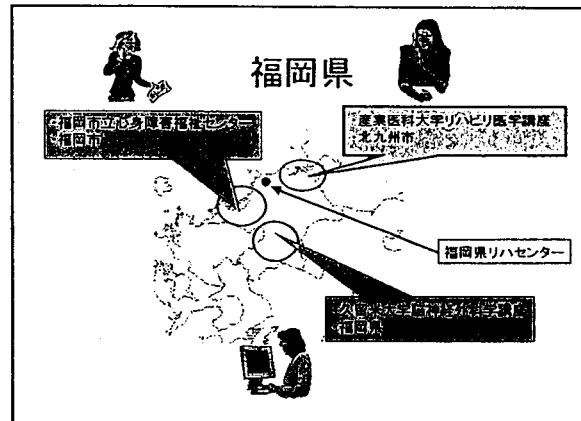
Dept Rehabil Med, UOEH

## 平成16年度事業

- 支援システムの再編成
  - 福岡県高次脳機能障害支援対策整備推進委員会 (委員長:福岡県岡本医監)
  - 産業医科大学リハビリ、久留米大学脳外科、福岡市立心身障害福祉センター、県リハセンター
  - 上記3施設にコーディネーターを配置し、支援を実施
- 高次脳機能障害支援に関する啓蒙・教育活動
- 高次脳機能障害者の医療・福祉機関の受け入れ一覧
- 高次脳機能障害の評価・訓練・社会支援の検討

### 福岡県高次脳機能障害支援対策整備推進委員会

- 委員長:福岡県健康福祉部 岡本医監
- 地方支援拠点機関委員  
産業医科大学 蜂須賀教授・岡崎講師
- 協力機関委員  
久留米大学 重森教授・森田教授・梅津助教授  
福岡市立心身障害福祉センター 永吉主査
- 関係機関学識経験者等  
福岡県医師会、障害者職業センター、身体障害者施設協議会、精神障害者社会復帰施設協議会、障害者更生相談所、北九州市障害福祉センター、九州大学
- オブザーバー:患者会、県・福岡市・北九州市行政担当者



## 各地の支援活動

- 久留米
  - 本人および家族の相談
  - 医療機関の情報交換及び受け入れ調整、院内の連絡調整
  - 支援計画策定会議など
- 福岡
  - 通所訓練(個別、グループ訓練)
  - 在宅生活を送る上での環境調査、生活安定
- 北九州
  - 社会資源の紹介や社会生活上の諸問題に対する調査
  - 関係機関とのケア会議の調整
  - 患者・家族、医療機関からの受診依頼の調査
  - 障害の診断、訓練、職場復帰

### 福岡県高次脳機能障害支援モデル事業:

#### 第2回医療福祉関係者および患者・家族のための研修会

- 日時:平成17年2月11日(韓国記念日) 場所:産業医科大学ラフォーテホール  
10:20~10:25「開会の挨拶」  
◎福岡県健康福祉部-医監 岡本浩二
- 10:25~10:40「平成15年度以降の高次脳機能障害支援モデル事業概要」  
◎座長:福岡県健康福祉部-医監 岡本浩二  
◎演者:厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課-課長補佐 山崎晋一朗
- 10:40~10:50「福岡県高次脳機能障害支援モデル事業の取組み」  
◎座長:福岡県健康福祉部-医監 岡本浩二  
◎産業医科大学リハビリテーション医学講座-教授 蜂須賀研二
- 10:50~11:20「高次脳機能障害者への支援プログラム」  
◎座長:久留米大学精神神経科-講師 石田重作  
◎佐賀大学医学部地域医療科学研究センター-福祉健康科学課1-教授 藤嶋三十四
- 11:20~12:30「高次脳機能障害とコーディネーター:今更けてこれらどう関わるか?」  
◎座長:福岡県健康福祉部-医監 岡本浩二、福岡市立心身障害福祉センター-主査 水西美砂子  
シンポジウム  
◎産業医科大学神経医学部脳神経学-MSW 野田雅美  
◎福岡市立心身障害福祉センター-理学療法士 石井豊衣  
◎久留米大学精神神経科-助手/ADP科脳外科-精神科医 大正美佐雄/岩崎宏真  
◎NPO法人 脳外研「からん」-理事長 小南健治
- 12:30~12:31  
◎産業医科大学リハビリテーション医学講座-教授 蜂須賀研二

## 各地の啓蒙・教育活動

- ・久留米:環境福祉事務所連絡会
- ・福岡:行政窓口担当者の学習会(2回)  
作業所・授産施設対象の学習会(1回)
- ・北九州:福岡県モデル事業研修会(企画運営)  
産業医科大学リハビリテーション講習会  
障害者地域支援セミナー

## 第2回産業医科大学リハビリテーション講習会

日時:平成17年2月11日(建国記念日) 場所:産業医科大学ラマツィーニホール  
13:00~13:05 「開催の挨拶」  
◎講習会実行委員会委員長 藤須 眞 研二(産業医科大学・教授)

13:05~13:15 O&Aの解説  
◎座長:北九州市立障害福祉センター・所長 大丸 幸  
◎講師:産業医科大学・助教授 佐伯 寛

13:15~13:30 「成年後見制度」  
◎座長:北九州市立障害福祉センター・所長 大丸 幸  
◎講師:北九州市社会福祉協議会権利擁護センター 江藤 みどり

13:30~14:25 「高次脳機能障害者の精神心理的特徴とその接し方」  
◎座長:北九州市精神保健福祉センター・主任 三井 敏子  
◎埼玉県総合リハビリテーションセンター神経精神科・医長 先崎 豊

14:25~14:55 「高次脳機能障害者の職場復帰」  
◎座長:北九州市精神保健福祉センター・主任 三井 敏子  
◎障害者職業総合センター・主任研究員 田谷 勝夫

14:55~15:00 「閉会の挨拶」  
◎講習会実行委員会副委員長 岡崎 哲也(産業医科大学・講師)

## 受け入れ機関一覧

施設	回答	公表	病院	回答	公表
福岡県	91	54	福岡	53	46
福岡市	28	22	佐賀	3	3
北九州市	35	18	熊本	6	5
佐賀	7	5	大分	3	3
熊本	42	17	宮崎	2	2
大分	22	19	鹿児島	2	1
鹿児島	24	13	山口	2	2
宮崎	25	17	合計	71	62
山口	32	17			
長崎	29	19			
沖縄	18	12			
合計	353	213			



- ・高次脳機能障害者の受け入れに関するアンケート
- ・公表に同意した機関名とその内容を小冊子にして配布(2/11)
- ・MSWや行政の窓口業務に活用

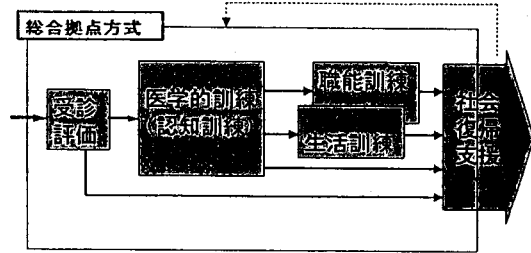
## 今後の課題

- ・3施設でそれぞれリハビリ・支援活動が開始されているが、これらを有機的に結びつける支援ネットワーク、特に行政サイドのシステム確立が急務
- ・福岡県として社会リハビリテーションの中核となる医療・福祉施設の整備が必要

## 名古屋市の 支援センター活動状況と問題点 (平成16年度)

名古屋市総合リハビリテーションセンター

## 名古屋市の 高次脳機能障害者支援システム



### 【名古屋市】 支援センター機能と特徴

- ①医療＝外来、入院、評価(高次脳評価)
  - ・主治医によるマネジメント、フォローアップ
- ②医学的訓練＝心理、ST、OTで実施
  - ・高次脳に特化した訓練、カウンセリング、家族指導
- ③生活訓練＝身体障害者更生施設で実施
  - ・障害者手帳未所持者3名/50名
- ④職能訓練＝更生施設通所部門で実施
  - ・通所: 支援費20名+手帳未所持者10名、入所: 10名強
- ⑤相談＝総合相談室、高次脳機能障害者支援モデル事業室
- ⑥支援＝更生施設、職能、心理、高次脳モデル事業室で実施

### 【名古屋市】 H16年度モデル事業計画

1. 職員体制・利用枠の拡大
  - ①支援コーディネーターの配置
    - ・高次脳機能障害者支援モデル事業室設置
    - ・1名専任(モデル事業室)、1名分兼任
    - ・施設、職能利用者以外の支援をモデル事業室が対応
  - ②身体障害者手帳を持たない高次脳障害者の更生施設利用(3名分)
2. 支援センター機能の充実
  - ①医療→訓練→支援に至る包括的アプローチの充実
  - ②支援コーディネーター業務(課題の整理・マネジメント・モニタリング)の充実
  - ③地域の拠点づくりを目指した取り組み
  - ④当事者団体、家族会支援の強化
  - ⑤その他＝研修啓発、調査研究、調査協力、等

### 【名古屋市】 支援センター活動実績(概要)

- ◆名古屋ハ受診者数(H16.5-6月/8週間)
  - ・脳損傷者959人 高次脳機能障害あり698人
  - うち、狭義242人 広義456人
- ◆相談者(H16.10～12月/国ハ送付データ)
  - ・総数361件・209人(うちコーディネーター関係230件・78人)
  - ・障害別: 脳外傷者67%(同関係・脳外傷者82%) / 人数比
  - ・コーディネーター内容: 就業関係37%、訓練関係30%
- ◆ネットワーク活動(H16.10.16～12月/国ハ送付データ)
  - ・総数518件 施設関連28%、相談機関22%、職場20%

### 【名古屋市】 支援センター活動実績(内容)

- ◆事業方針関係
  - ・名古屋市支援対策整備推進委員会(2回/年)
  - ・プロジェクト会議(1回/週)
  - ・作業部会(1回/月)
  - ・地域支援検討会(1回/月)
- ◆調査・分析
  - ・高次脳機能障害者受診者調査・分析
  - ・高次脳機能障害者要介護認定調査・分析
  - ・高次脳機能障害者ケアカード作成協力
  - ・リスクマネジメント調査・分析
- ◆研修・啓発
  - ・名古屋ハ見学研修会(1回/2ヶ月)
  - ・リスクマネジメント研修会・マスコ取材協力
  - ・脳外傷リハビリテーション講習会(名古屋市内2会場)
  - ・みずほ総会-脳外傷講習会
- ◆当事者団体支援
  - ・みずほ、みかん山作業所運営委員会
  - ・みずほ地区会支援

## 【名古屋市】

### 支援センターにおける問題点と課題

#### ①高次脳機能障害者の増加への対応

- ・支援者のマンパワー
- ・地域で支える拠点づくり
- ・継続的支援の充実

#### ②精神症状、児童等、従来からの対象患者の周辺群の課題

#### ③愛知県との協力体制の確立

- ・相談者居住地域：名古屋市内41%、市外(県内)45%、  
県外14% (H16.10～12月/国リハ送付データ)
- ・更生施設入所者、職能利用者数も名古屋市内<市外

## 平成16年度高次機能障害支援モデル事業の活動状況と問題点

国立身体障害者リハビリテーションセンター

### 1. 病院における活動報告

#### (1) 相談業務

医療福祉相談室に支援コーディネーター1名設置（主任MSWの兼務）

相談件数 281件（平成16年4月～12月）

前年度、同時期には104件であり、前期モデル事業報告後倍増した。

相談者の居住地は、東京都（108件）、埼玉県（59件）が過半数を占めるが北海道から沖縄まで33県と広範囲であった。

#### (2) 高次脳機能障害外来

平成16年9月から神経内科の特殊外来として高次脳機能障害外来を解説した。

実施日：毎週火曜日午後、水曜日午前（完全予約制 定員各3名）

受診者：38名（平成16年9月～12月）

#### (3) 高次脳機能障害リハビリテーションの実施

高次脳機能障害診断基準を満たす入院患者49名（平成16年4月・12月）に医学的リハビリテーションを実施した。

#### (4) 家族支援

##### ア、家族学習会の実施

隔月で開催、5回実施、参加者 延べ65名、家族90名

##### イ、パンフレットの改訂（パンフレット小委員会）

前年度作成したパンフレット「高次脳機能障害について理解を深めていただくために」の内容の充実を図った。

平成17年3月発行予定

##### ウ、家族支援のあり方の検討（家族支援小委員会）

日常診断、相談内容、家族学習会などから家族のニーズを抽出し、リハ病院における家族支援方法を検討した。来年度試行予定。

家族支援に関しての職員向け研修会を実施予定（平成17年2月）

#### (5) 問題点

##### ア、マンパワーの確保

- イ、各地域（特にモデル事業に参加していない地域）の支援体制の情報収集
- ウ、啓蒙活動の充実

## 2. 更生訓練所における活動状況

### (1) 更生訓練所の相談業務

更生訓練所相談判定課に支援コーディネーター1名設置（心理の兼務）

相談件数 約30件、高次脳機能障害を併せ持つ者100件

### (2) 高次脳機能障害者に対する支援体制の整備

(ア) 高次脳機能障害者の理解と一連の実践体制の強化を図るため、職員研修を行った。

研修回数：11回（参加者各研修に約50名）

(イ) 高次脳機能障害者で身体障害者手帳等を持たない者の、訓練受け入れ体制の整備を行った。

受け入れ：1名 10月より

事務的な問題、居室の問題、訓練に対する支援体制など

(ウ) 高次脳機能障害の診断を持つ入所者21名の訓練を実施した。

(エ) 高次脳機能障害支援ニーズ判定票利用に関する研究に協力した。

(オ) ケアニーズに関するアンケート及び面接調査に協力した。

### (3) 更生訓練所入所者のうち、高次脳機能障害を有している者

肢体不自由者（一般リハ課程）：109名入所（平成17年1月現）

高次脳機能障害の診断がついている者：21名（19.2%）

高次脳機能障害の疑いがある者：14名（12.8%）

計：35名（32.1%）

（各のコース）

診断がついている者で職リハコース：12名（57%）

疑いのある者で職能コース：9名（43%）

(各コースで日常生活上問題となるケース) (特に宿舎、訓練場面において)  
診断がついている者で職リハコース : 8名(38%)  
疑いのある者で職能コース : 8名(38%)

- (例) (ア) 朝、起きれない。ズル休みをしてしまう。  
(イ) 共同生活の為、大型冷蔵庫が娯楽室に用意されているが、中に入れて  
いる、飲み物、食べ物等を食べてしまう。  
(ウ) じっと見つめるなど、他の入所者側が喧嘩を売られているのではと  
トラブルを起こすケースが多い。  
(エ) 記憶障害等により、机の上にあったものがないなどの訴えにより対  
人関係をそこなう。

### 3. 問題点

- (ア) マンパワーの確保  
(イ) 宿舎生活上において、コミュニケーション技能の拡大が図れないためトラ  
ブルも多いことから他の入所者に対する啓蒙、啓発の充実(宿舎管理を含  
む)  
(ウ) 訓練途上における訓練マニュアル等の策定  
(エ) 支援計画の内容整備体制(地域のネットワークの強化)  
(オ) 制度上の問題もあり、手帳のない者に対する訓練手当等の整備

## 最終年度に向けて委員長から御願いたいこと

1. 一般施策化に向けて、体制整備のあらゆる段階でこれまでの蓄積を活かして中心的役割を果たして頂きたい。
2. 「高次脳機能障害者の診断・治療・支援マネジメント（仮称）」の作成に協力を願いたい。
3. 専門委員班（旧評価基準作業班）では、診断、評価のガイドラインをまとめる。
4. 専門委員班（旧訓練プログラム作業班）では、標準的訓練プログラムをまとめる。
5. 支援コーディネーター班では、支援組織の枠組み、支援拠点の適正配置、支援コーディネーターの役割、業務、などについてモデルを提示して欲しい。また、ケアマネジメントマニュアルの作成を御願いたい。
6. 全国の自治体がこれから支援体制を整備するにあたり、参考になる使いやすく、わかりやすい印刷物を作成し、また直接的協力依頼には、積極的にこたえて頂きたい。



## 平成16年度 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会(短期コース)実施要綱

### 1 目的

高次脳機能障害支援モデル事業の一環として、高次脳機能障害者の診断、評価、リハビリテーション、支援など関連する諸問題について、都道府県・指定都市における行政担当者が、必要な知識と技術を習得することを目的とする。

### 2 主催

国立身体障害者リハビリテーションセンター

### 3 期間

(短期コース) 平成16年 7月29日(木)～7月30日(金)

### 4 場所

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院

(埼玉県所沢市並木4丁目1番地)

### 5 受講定員

100名

### 6 受講資格

都道府県・指定都市における行政担当の職にある者で、都道府県・指定都市の障害保健福祉主管部(局)長からの推薦のある者。

### 7 研修内容

別紙日程表のとおり。

### 8 受講手続

受講希望者は、別紙(1)受講申込書を国立身体障害者リハビリテーションセンター学院係あて7月7日(水)までに郵送(必着)により申し込むこと。

### 9 研修会費用

5,400円 (初日に徴収する。なお、宿泊費及び食費は含まない。)

### 10 宿泊施設

① 当センターの研修宿泊施設に宿泊を希望する者は、別紙(2)宿泊申込書により申し込むこと。

② 宿泊費用は一泊1,250円(初日に、一泊分を徴収する。)

ただし、宿泊は、研修会当日(7月29日)からとし、初日の研修終了後に入舎となる。

③ 宿泊施設は定員40名のため、定員を超えた場合は、選考(抽選)のうえ決定する。

### 11 受講決定

選考のうえ、7月15日(木)までに所属長または本人あてに通知する。

### 12 その他

① 平成17年2月23日(水)～2月25日(金)に、都道府県・指定都市における関係機関の担当者向け(病院の医師及び関係する職種並びに福祉施設の担当者等)の研修会(平成16年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会(一般研修コース))を実施予定である。開催通知は、平成17年1月上旬に行う予定である。

② 本研修会に関する照会については、国立身体障害者リハビリテーションセンター学院係あて連絡のこと。

平成16年度 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会（短期コース）日程表

【短期コース】

月 日	午 前	午 後
7月 29日 (木)	<p>開講式・オリエンテーション (センター紹介ビデオ) (9:40~10:30)</p> <p>① 障害者保健福祉行政の動向と高次脳 機能障害支援モデル事業について (10:40~12:10) 厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 課長補佐 山崎 晋一朗</p>	<p>②医学的リハビリテーション (13:10~15:00) 順天堂大学大学院 教授 長岡 正範</p> <p>③地域支援ネットワークの現況 (15:10~17:10) 三重県身体障害者総合福祉センター 経営企画チーム 企画グループリーダー 白山 靖彦</p>
7月 30日 (金)	<p>④高次脳機能障害支援モデル事業について (9:00~10:00) 国立身体障害者リハビリテーションセンター 研究所感覚機能系 障害研究部長 中島 八十一</p> <p>⑤生活復帰・介護支援プログラム (10:10~11:10) 浦和大学総合福祉学部 教授 寺島 彰</p> <p>⑥生活復帰・介護支援の実際 (11:15~12:15) 浦和大学総合福祉学部 教授 寺島 彰</p>	<p>⑦地域支援ネットワークについて (13:15~14:15) 浦和大学総合福祉学部 教授 寺島 彰</p> <p>⑧生活訓練・職能訓練の実際と支援のあり方 (14:25~15:55) 名古屋市総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援モデル事業室 長谷川 真也</p> <p>⑨質疑応答 (16:00~16:20) 国立身体障害者リハビリテーションセンター 研究所感覚機能系 障害研究部長 中島 八十一 浦和大学総合福祉学部 教授 寺島 彰</p> <p>閉講式 (16:20~16:35)</p>

## 平成16年度 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会(一般研修コース) 実施要綱

### 1 目 的

高次脳機能障害支援モデル事業の一環として、高次脳機能障害者の診断、評価、リハビリテーション、支援など関連する諸問題について、都道府県・指定都市における関係機関の担当者(病院の医師及び関係する職種並びに福祉施設の担当者等)が、必要な知識と技術を習得することを目的とする。

### 2 主 催

国立身体障害者リハビリテーションセンター

### 3 期 間

平成17年 2月23日(水)～2月25日(金)

### 4 場 所

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 大研修室(100名を超える場合は、学院講堂)  
(埼玉県所沢市並木4丁目1番地)

### 5 受講定員

100名

### 6 受講資格

都道府県・指定都市における関係機関(身体障害者更生相談所、精神保健福祉センター、保健所、病院及び福祉施設等)において、診断、評価、訓練、支援等に携わる医師及び関係職種にある者で、都道府県・指定都市の障害保健福祉主管部(局)長からの推薦のある者。

### 7 研修内容

別紙日程表のとおり。

### 8 受講手続

受講希望者は、別紙(1)受講申込書を国立身体障害者リハビリテーションセンター学院係あて、2月1日(火)までに郵送(必着)により申し込むこと。

### 9 研修会費用

5,400円(初日に徴収する。なお、宿泊費及び食費は含まない。)

### 10 宿泊施設

① 当センターの研修宿泊施設に宿泊を希望する者は、別紙(2)宿泊申込書により申し込むこと。

② 宿泊費用は1泊1,250円(初日に、宿泊日数分を徴収する。)

ただし、宿泊は、研修会当日(2月23日)からとし、初日の研修終了後に入舎となる。

③ 宿泊施設は、定員40名(2人部屋)のため、定員を超えた場合は、選考(抽選)のうえ決定する。

### 11 受講決定

選考のうえ、2月10日(木)までに、障害保健福祉主管部(局)長及び所属長あてに通知する。

### 12 その他

本研修会に関する照会については、国立身体障害者リハビリテーションセンター学院係あて連絡のこと。

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地  
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院  
TEL 04-2995-3100 内線 2614  
FAX 04-2996-0966

平成16年度 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会 (一般研修コース)日程表  
〔一般研修コース〕

月・日	午 前	午 後
2月 23日 (水)		受付 12:30  開講式・オリエンテーション (13:20~14:10) (センター紹介ビデオ放映)  ①高次脳機能障害について (14:20~15:20) ー全般的事項ー 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課 課長補佐 山崎 晋一郎  ②高次脳機能障害の医学的事項 (15:30~17:00)  国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 感覚機能系障害研究部長 中島 八十一
24日 (木)	③医学的リハビリテーションの実際 (9:00~10:30)  1) 身体機能障害 2) 記憶・注意・遂行機能障害 3) 社会的行動障害  順天堂大学大学院 内科系 リハビリテーション医学 教授 長岡 正範  ④認知障害に対する神経心理学的検査 (10:40~12:10)  慶應義塾大学医学部 精神神経科学教室 助教授 加藤 元一郎	⑤心理療法 (13:30~15:00)  国立身体障害者リハビリテーションセンター病院 医療相談開発部 主任心理判定専門職 四ノ宮 美恵子  ⑥高次脳機能障害者の家族支援 (15:10~16:40)  国立身体障害者リハビリテーションセンター病院 診療部 神経内科 三輪 隆子
25日 (金)	⑦生活復帰・介護支援プログラム (9:00~10:30)  浦和大学 総合福祉学部 教授 寺島 彰  ⑧生活訓練・職能訓練等の実際と支援の あり方 (10:40~12:10)  名古屋市総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援モデル事業室 長谷川 真也	⑨地域支援ネットワークについて (13:10~14:40)  浦和大学 総合福祉学部 教授 寺島 彰  ⑩地域支援ネットワークの現況 (14:50~16:20)  三重県身体障害者総合福祉センター 経営企画チーム 企画グループリーダー 白山 靖彦  閉講式 (16:30~16:45)